令和３年(2021 年)11 月 12 日

保　護　者　の　皆　さ　ま

豊能町立東ときわ台小学校
校　長　　張　　裕 太 郎

令和３年度(2021 年度)全国学力・学習状況調査の結果および今後の取組みについて

秋冷の候、保護者の皆さまには、益々ご健勝のこととお慶び申しあげます。

平素は、本校教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、５月 27 日（木）に悉皆調査として実施しました６年の「全国学力・学習状況調査」結果分析を行いました。本調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、学校における教育活動の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、平成 19 年度より実施されています。小学校については新学習指導要領が全面実施されてから初めての調査でした。本校においては調査人数自体が少ないため、統計の数字だけで良い・悪いを判断しづらい面もありますが、課題については、校内で共有し、改善に向けて取組みを進めてまいります。

以下に、今回の結果分析から見えてきた「プラスの面○」「マイナスの面●」および≪課題克服に向けての取組み≫をまとめましたので、ご家庭でも話題にしていただけますよう、よろしくお願い致します。

なお、豊能町教育委員会による町全体分析結果は、本町ＨＰにて公表されています。また、全国学力・学習状況調査の問題・調査用紙やその分析結果は、国立教育政策研究所ＨＰで公表されています。それぞれご覧ください。

１．学力状況調査の結果から

学力状況調査の結果は、国語は府・全国平均とほぼ同程度、算数は府・全国平均ともに上回り、全体通して概ね良好でした。しかし、更なる努力が必要な項目もありました。

国語

○多くの問題の正答率は府・全国平均と同程度もしくは上回っている。

●その一方で、大きく下回っている問題が３問あった。（２四、３三（１）エ、３三（２）オ）

●全般的に、記述式の問題の正答率は低い。

●「読むこと」について、府・全国平均より下回っている。

●漢字の正答率がよくない。

●無解答率が府・全国平均と比べても高い。

●「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」問題、及び、「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える」問題の正答率が、府・全国平均の半分以下である。

≪課題克服に向けての取組み≫

◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約・説明する指導の充実

・文章を要約するためには、目的に応じて文章全体から必要な部分を選び、内容を端的に説明することが大切である。そのため、要約する目的を意識して、文章全体から内容の中心となる語や文を選び、要約の分量などを考えて要約することができるよう指導していく。

・複数の資料から必要な情報を読み取って活用したり、組み合わせたりしながら説明する力をつける。

◎自分の思いや考えを正確に伝えることができる指導の充実

・修飾と被修飾との関係に気を付けて文を整えることが、自分の思いや考えを正確に伝える上で重要であることに気付くことができるような学習内容を取り入れ、指導していく。

・自分が書いた文章を読み返す際に、読み手の立場に立って、言葉の使い方を確認する習慣を身につけられるよう指導していく。

◎漢字学習については、日常生活の中で適切に使うことができるようにすることが重要である。そのためには、読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章の中で正しい使い方を習得できるよう指導していく。また、漢字を使って文章を書く機会を意識して設定し、漢字を活用しながら自分の考えを書くなど生活に根ざした学習を通して、漢字への理解の定着をめざしていく。

◎問題に対する「無解答」を克服するために、長文や少し難解な問題に試行錯誤しながらでも粘り強く取り組もうとする意欲や態度を、日々の学習の中で育てていく。

◎読書習慣の定着については、今後も指導を継続していく。

算数

○ほぼすべての問題で、正答率が府・全国平均を上回っている。特に「図形」「測定」「データの活用」の領域では、大きく上回っている。

○無回答率が低い。ほぼ全ての問題で０％である。

●「速さと道のりを基に、時間を求める式に表す問題」（１（５））の正答率が、府や全国平均は高かったが、本校の正答率が低い。

●「図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題」（２（３））の正答率は、府や全国平均と同様、本校の正答率も低かった。

●全般的に、記述式の問題の正答率はやや低い。

≪課題克服に向けての取組み≫

◎基礎基本は概ね身につけることができているが、例えば、問題場面から速さ・道のり・時間の公式により求めることができるだけでなく、数量の関係を捉えて式や図に表すことができるようにする必要がある。

◎身の回りの事象について、その事象の因果関係や傾向を漠然と捉えるだけでなく、例えば、条件やデータに基づいて判断する問題解決の方法について考察したり、批判的（ここでの批判的とは、論理的で偏りがなく、物事を多面的、客観的に捉えること）に考察したりするなどできるようにすることが重要である。また、設定された問題に対してどのような条件の使用、データの収集が必要かを判断できるようにすることも大切である。

◎算数の各単元に対して今後も十分な習熟をはかる一方で、課題を見つけて筋道を立てて考え、求め方、理由などを言葉で表現する力、結果をもとに考察する力をつけ、学習したことを文章でまとめる機会を、より多くつくる。また、目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えをまとめて文章に書き表す指導をしていく。

◎複数の資料から必要な情報を読み取って、活用したり組み合わせたりしながら説明する力をつける。

２．学習状況調査の結果から

本校の今年度の学校教育目標は「一人ひとりを大切にし、ともに学び・活動する喜びに満ちた学校」、スローガンは「なかまとともにさいごまでやりきろう」です。児童質問紙から、子どもたちの生活や家庭学習の様子、授業に対する意識の調査結果から見られる特徴に加え、本校の目標と関連の深い項目を取り上げました。これは、保護者・地域の皆さまに、本校の子どもたちの学習の状況をお知らせすることで、本校の教育に更なる関心を高め、地域ぐるみで子どもたちの育ちを支え、今後の充実・発展につなげたいと考えたからです。課題については、校内で共有し、今後も改善に向けて取り組んでまいります。（以下、調査結果を基に本校の分析・考察を述べておりますが、この分析・考察はあくまでも一つの側面です。）

肯定的な意見の多かった項目

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

→ほぼすべての児童が「いけない」と判断しており、規範意識の高まりが見られます。一方で、全ての児童が、いじめはどんな理由があっても許されない行為であるという強い認識を持てるよう、全教育活動を通じた指導を継続していきます。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

→日頃から、学級や縦割り活動、家庭・地域を含め、自分の周りの人との関わりを持つことがあり、その中で世の中のために頑張りたいと思っている姿が感じられます。

○「自分でやると決めたらことはやり遂げるようにしていますか」

→授業や活動の中で、振り返りを丁寧に行っている結果や、ものごとを最後までやり遂げた際に、そのできた時を見逃さず惜しみなく褒めることの大切さを改めて感じています。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」

「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていますか」

「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」

→教室の仲間と「ともに学び・活動する」意識が高いことがわかります。また、これまで重点的に取り組んできた「聴く力・話す力・話し合う力の育成」が、授業だけでなく学級集団づくりの観点からも、その良さについて肯定的に捉えられているといえます。

○「国語の勉強は大切だと思いますか」

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」

「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか」

「算数の勉強は大切だと思いますか」

「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」

「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」

→各教科の授業に対して肯定的に捉えられているといえます。

肯定的な意見の少なかった項目

●「自分には、よいところがあると思いますか」

→謙虚さや控えめな面、よいところと考える基準が個人で異なり自己に厳しい判断をしている、などが表す結果と捉えることができる一方で、失敗を恐れる、他人との比較をしてしまう、なども考えられ、看過できない側面もあります。また、自己有用感を味わえる機会が多くなかったのかもしれません。

●「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」

「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」

→少しのことで諦めない強さや折れない心を持っている子どもは、学習内容が定着します。前述の「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」は肯定的な意見が多く、学力調査の結果につながっているとみられる一方で、肯定的な意見の少なかった「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦する」の結果を踏まえ、今後、難しい課題であっても粘り強く取り組むことで、更なる学力を伸ばすことにも繋げられると考えます。同様に、肯定的な意見が多かった前述の「自分と違う意見について考えることが楽しい」から、人の意見を受け入れる受容性が高い子どもは、学習過程で自分の考えに固執せず柔軟に捉えることができると考えられます。一方で肯定的な意見の少なかった「自分の思いや感じていることを、きちんと言葉で表すことができる」ことも大切で、それが、人の意見を自分の力に加えることとなり、結果として学力の向上に結びつくと考えます。そして、このことは人としての成長にも繋がります。

●「普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」

→「２時間以上」と答えた割合が府・全国平均より高かったです。コロナ禍で友達と遊ぶなどの機会が減少したことも要因の一つに考えられます。

●「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じていましたか」

「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」

「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」

→多くの子どもたちが、強いストレス負荷がかかり続けていたことが、改めて浮き彫りとなりました。

≪課題克服に向けての取組み≫

◎適切な評価

学校の取組みの中での適切な評価が、児童の自己肯定感を高めるとともに、最後までやり遂げる経験をさせることで、達成感や「やる気」を育てていきます。引き続き、児童一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、積極的に評価していくことを大切にします。

◎自力解決を大切にして，説明する力を伸ばす、経験値を高める取組み

学習の場面や学校行事、学級での取組みなどで、自分で問題を解く力、自分の考えを表現する力、自分の考えを深め広げる力を意識した取組みをもちます。自分たちで学級での活動を計画・準備・実行する場面では、話す・聞く能力や話し合う能力が必要となります、このような場面を、低学年からつけるべき力を見定め、高学年になるまでに系統的に学習ができるよう、また、繰り返し経験することで、自主性・計画性を身に付けるとともに、これらを向上させていきます。加えて、異学年交流による取組みにより、単学級ならではの課題から、より相手意識をもたせ、立場の違いを知る、相手の気持ちを読む、自分の考えを伝える、いろいろな考えに触れる、全員の考えをまとめる、解決策を考える、協力して実践する、などの力を培っていきます。

◎家庭や地域との協力

学校はもちろん、家庭や地域におかれましても、子どもたちの話をたくさん聞いていただくことをお願いします。特に、子どもたちは聞き手が内容について興味や関心をもって聞いてもらっていると、さらに話す意欲が向上します。また、目を見てしっかりと話しを聞いてもらえると「わかってもらえた」という感覚が沸き、自己肯定感も高まり、学習意欲につながります。ぜひともご家庭・地域におかれましても、ご協力をよろしくお願いいたします。